

アメリカ、アメリカ！
～ 友人宅で蕎麦パーティ ～

江戸ソバリエ 木村佐江子（日本橋そばの会）

☆7/15 サンフランシスコ空港

サンフランシスコで、江戸ソバリエの仲間と蕎麦打ちをしたのは今年の春。その SF の空港にまた降り立ちました。今回は、主人と私と娘夫婦と孫の 5 人のファミリー旅行。目的地はネバダシティとデンバー。娘と夫が若いときにお世話になった人たちを訪ね、どうせならお土産代わりに蕎麦を打って食べていただくというプラン。

だから、バッグには蕎麦打ち道具と材料が詰まっています。

金ざる(篩と掬い箸を兼ねています)、滑り止め、計量カップ、洗面器(木鉢の代りです)、60cm と 90cm の麺棒 2 本、小間板、蕎麦庖丁、プラスチック製の舟、割箸、
--

蕎麦粉 2kg(信州産石臼挽きぐるみ、常陸秋そば)、つなぎ、打ち粉、達磨のつゆ(缶入)、さてさて、どうなりますことか！

☆7/15 ネバダシティ (カルフォルニア州)

サンフランシスコから小型飛行機でカルフォルニアの州都サクラメントへ。そしてさらに東北に車で約 2 時間、97km 離れたネバダシティへと向かいました。そこには、AFS の交換留学でネバダ・ユニオン・ハイスクールへ私の娘(当時 16 歳)が通ったとき 1 年間ホームステイしていた Gibson さんのお宅があるからです。

「ネバダ」というのは「雪に覆われた」という意味があるらしく、シティも標高 1,000m の比較的高地にあります。そこにある Gibson さんのお宅は 12,000 坪もある広大な敷地、お隣の家影すら見えない林の中にあります。私と夫は 19 年ぶりの訪問、娘は 6 年前に結婚したときに訪ねていますが、なつかしい景色でした。夜には無数の星が煌き 日中は鹿が散歩しています。偶には怖いコヨーテもいるとのことですが、こんな素敵な環境で 1 年間を過ごした娘、ありがたいことだなと感謝しながら、私たち家族は泊めてもらいました。



【Gibson 邸の窓の外に広がる林】

Gibson さんのお宅では、持参した洗面器を木鉢の代りにして、信州産の蕎麦粉 500g を二人で 2 回打ちました。使った水は水道水、計量カップも持ってきましたが、アメリカはオンス表示のため返ってこんがらかって、結局は主婦の罐の目分量。困ったのは打ち台の高さです。私はそんなに背丈が低い方ではないけれどアメリカのキッチンのは高いから力が入れづらいのです。そこで脚立を引っ張り出してきて、その最下段を踏台にして捏

ねました。そして茹でて出来上がった蕎麦を皿に盛って〔ざる蕎麦〕ならぬ〔さら蕎麦〕にして、つゆをかけました。余った蕎麦は〔揚げ蕎麦〕に。他に、ズッキーニ、ニンジン、アスパラ、ピーマン、マッシュルームなどの〔野菜の天ぷら〕も。今日の献立は〔天ざる〕ではなくて〔天さら〕かしら。



【脚立を踏台にして捏ねている私】



【洗面器を木鉢代わりに】

Gibson さんの息子さんの一人は日本人の女性と結婚されて、いま名古屋にお住まい。だから Gibson さんは何度か来日され、お蕎麦は初めてではないとのこと。でも今日見えているもう一人の息子さんの、2 人のお孫さんはお蕎麦も、箸を使うのも初めてで、5 歳のお孫さんはお蕎麦をグチャグチャにして食べていたので、皆で大笑い。9 歳のお孫さんの方は、今までお野菜が大嫌いだったというのに、今日はニンジンの天ぷらを美味しく食べたというので、ご両親はびっくり。



【お蕎麦も箸も初めてのお孫ちゃん】

一方のわが夫はといえば、ちょっと不満気味。というのはもう少し水が冷たいかと思って氷を用意せず、氷で閉めなかった私が変わったよう。でも、それは日本人の求める食感、こちらの人は十分満足して美味しくいただいていたらしやいました。

一方のわが夫はといえば、ちょっと不満気味。というのはもう少し水が冷たいかと思って氷を用意せず、氷で閉めなかった私が変わったよう。でも、それは日本人の求める食感、こちらの人は十分満足して美味しくいただいていたらしやいました。

☆7/19 デンバー (コロラド州)

娘の家族はあと少し Gibson さん宅にお世話になってから、帰国の予定。

私たち夫婦は、ネバダシティからサクラメントへ戻って、今度は Amtrak (全米鉄道旅客公社) の列車の旅を楽しみました。列車名は「California Zephyr」、エメリービル駅(サンフランシスコ郊外) ⇄ シカゴ・ユニオン駅(イリノイ州)の約 3,900km、35 駅を 53 時間かけて走っている大陸横断列車です。

私たちは、サクラメント駅からデンバー・ユニオン駅へ向かいます。この間 17 駅、30 時間以上。途中の駅で 30 分待とうとも、3 時間ぐらい停車しようとも誰も文句もいりませんし、怒りもしません。ゆったりしたもので、こういうのが大陸的というのでしょうか。下



【「California Zephyr」の真ん中にある開放的なラウンジカー】

町育ちのせっかちな私にはちょっと合わない気がします。

コロラドの州都デンバーはロッキー山脈の麓にある大都会、標高 1 マイル(約 1,600m)の所に位置しているところから、「マイル・ハイ・シティ」とも呼ばれているそうです。ここデンバーのブライトンという所に 20 代後半ごろの夫は 2 年間住んでいたのです。そのとき特にお世話になったのがサカグチさん、ただそのサカグチさんは残念なことにすでにお亡くなりになりましたが、91 歳の奥様がいらしゃいますので、

夫はその方にお会いしておきたいということで、この度の旅行になったわけです。

デンバー・ユニオン駅に迎えに来てくれたのはサカグチさんの娘さん夫婦。私たちは近くの Best Western ホテルに泊まることにして、皆さんと旧交をあたためました。

集まった所は、サカグチさんの従妹のカヨコさんのお宅。カヨコさんって日本人のような名前だけど、ペルー国籍の方です。とにかく彼女のお宅にサカグチさんの親類知人が 10 名ほど集まって歓迎会兼持寄りパーティが開かれました。

私は常陸秋そば 500g を二八で 2 回打ちました。アメリカの水は硬水ばかりだったけど、それでも巧く打つことができたと思います。ここでは木鉢の代わりにステンレスボールにしましたが、どうしても動きますから、手で押さえてもらって捏ねました。

そして切って、茹でて、今度は氷で締めました。つゆは「だしの素」(味の素)を使って作りました。それに大根卸し、長葱、鰹節を加えて〔ぶっかけ蕎麦〕です。アメリカの土地で育った大根は日本のように辛くありませんから、日本人の舌にはしっくりこないかもしれませんが、アメリカの人は甘いのが好きですから、むしろこの方がいいのです。それ



【ボールを手で押さえてもらって】



【揚げ蕎麦】

から〔蕎麦いなり〕も作って、ズッキーニの〔天ぷら〕を揚げて、ここでも余った蕎麦は〔揚げ蕎麦〕にしましたが、〔蕎麦いなり〕がありますとだいぶ和風献立です。

日系人といっても、2世3世4世の人たちです。お蕎麦は初めての人ばかり、鯉節に弱い人もいます。「蕎麦麵を作るのだ」と聞いて、パスタ器を準備してくれた人もいましたけれど、「そんなものは使いませんよ」と言って、私が蕎麦を打ち、横で主人が英語で説明してくれました。そんな蕎麦打ちの手順を一から熱心に見ていた人が、「マジックだ！」と驚いたようです。どなただったか忘れましたが、江戸ソバリエ認定講座の先生が「手打ち」の「手」は「手間」の「手」だとおっしゃったことを覚えています。きっと、アメリカ人の言う「マジック」とはその「手間」を含んでのことではないでしょうか。そう思うと、遙々と蕎麦打ち道具を持って来て、蕎麦打ちをしたことが認められたような気がして、大変嬉しかったです。

☆7/22 イーグル・ヴェイル (コロラド州)

ロッキー山脈の標高2,000mの所にいらっしゃるといふ、夫の友人ケン・イトウさんを訪ねてイーグル郡のヴェイルへ行きました。ヴェイルといえば、スキーのメッカ。イトウさんは、冬はプロスキーヤー、他の季節はカウボーイというのが仕事らしい。レッキとした日本人だけど、1960年代の中ごろアメリカに渡ってそのまま永住権を得たらしい。カウボーイとしては十数頭の牛の面倒を見ていて、その名も「OK 牧場」だということからふるっていますね。



【イトウさんの「O.K. Coral」】

そんなケン・イトウさんのお宅では、信州産の蕎麦粉で〔蕎麦搔〕を作って上げました。「本つゆ」(キッコーマン)につけて、海苔を巻いて食べていただきました。

☆7/23 サンフランシスコ空港

またサンフランシスコに戻ってきました。その日は空港近くのミルブレーの Travelodge に1泊。そして7/25に無事、東京の自宅に帰って9泊11日の充実したアメリカ家族旅行が終わりました。

夫も、娘も、若いころアメリカで過ごしたことは、とても有意義なことだったと思います。そして私も、「夫のアメリカ」「娘のアメリカ」に触れることができてほんとうによかったと思います。これもお蕎麦のお蔭かしら。

そういえば、夫の部屋にはアメリカ映画を代表する大女優オードリーヘップバーンとマリリンモンローの大きなポスターが飾ってあるけれど……。

7/27 OK 牧場のイトウさんから主人のもとへメールが届きました。

「君たちが1個だけ置いていってくれたインスタントのカップラーメンがとりわけ旨く

てビックリした。インスタントもあれだけ旨ければいい。こちらで売っている日本製ではない、インスタントラーメンはインチキだということが良く分かった」。

というようなことが書いてありました。インスタントでさえこうだから「やはり日本は麺王国なんだ。そして日本食はすごいんだ」と思いました。

— おわり —